

北海道十勝：三段山・富良野岳ジャイアント尾根山スキー報告

【山城】北海道十勝：三段山・富良野岳

【日程】2018年2月5日（月）～2月11日（日）

【メンバー】菊池・他7名（チーム福島）

【行程】

5日：千葉ー石岡（K家に自転車デポ）ー郡山ー仙台港 19：40ーフェリーー

6日：フェリーー11:00 苫小牧ー富良野ー上富良野（買い出し）ー吹上温泉・白銀荘（泊）

7日（晴時々曇り）：白銀荘（1017m）ー三姉妹（1250m？）ー三段山山頂（1748m）
ー白銀荘ーナマコ尾根に向かうがルートミスで三姉妹に到達ー白銀荘（泊）

8日（晴時々曇り：前日からの降雪10cm）：白銀荘ーバーデン上富良野前の駐車スペースーヌッカクシ富良野川渡渉（990m）ーベベルイ川を右に見ながらトラバース登りーベベルイ川渡渉ージャイアント尾根ー1400mから滑走ー標高差150m程2回登り返し3本滑走ー往路を滑走ー駐車スペースー白銀荘（泊）

9日（曇り：前日から降雪15cm、ガスで視界不良）：白銀荘ー富良野スキー場：Aゲートから Outback（急斜面ルート）を滑走ーその後グレンデ滑走

10日（曇り、前日からさらに降雪あり、スタート時ー6℃と高温）：白銀荘ーナマコ尾根ー1420mから往路を滑走ー白銀荘ー苫小牧 21:15 ーフェリーー

11日：フェリーー4:45 八戸港ー郡山ー石岡ー15:30 千葉



今年も三段山登頂

- ・昨年が続いてチーム福島に同行し吹上温泉・白銀荘をベースに行ってきた。昨年より 3 週間ほど遅い 2 月 7 日（1 日目）、前日までは暫く降雪がなく、森林限界より上部は、雪が飛ばされ、条件不良との情報にテンションが下がりながら -15°C の冷え込んだ白銀荘をスタートし三段山に向かった。低温であるが天気はまあまあ、美瑛富士の三角形の頂上が見える。昨年は滞在前から降雪がないにもかかわらず、比較的パウダーが温存されていたが、今回の 1 日目は林間にはパウダーが温存されているエリアもあるが、上部に行くに従い固い雪面でもあるが、昨年より厳しいようである。ダケカンバの三姉妹に到着、急斜面をトラバースしながら上部の台地に乗上げるのは苦労した。

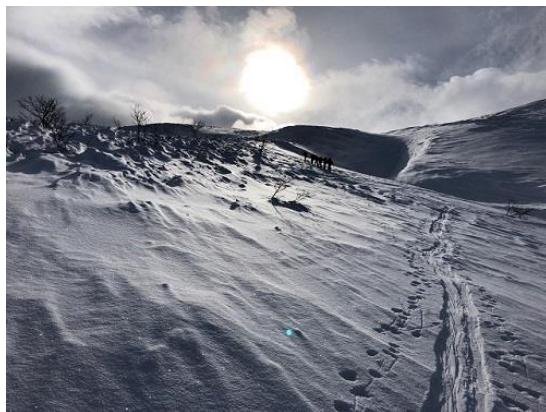


昨冬、初めて冬の富良野岳の雄姿を目の当たりにして大感動。昨夏の富良野岳にも挑戦して雄姿とお花畑を堪能したが今回を含め 1 年に 3 回目の素晴らしい景色をゲットできた。



白銀荘のあたりは、今冬は昨年より積雪は多いようであるが、上部は雪付きが悪くハイマツが出ており、シュカブラの厳しいエリアとなっている。

去年は時期が早く、なかなか太陽が稜線上に上がってこなかったが、今年は稜線上に太陽が上がっている。しかし風がやや強くなっており厳しい寒さである。目出帽をかぶっているが、ゴーグルが曇らないように鼻や口を出したり、覆ったりしながら苦勞したが、刺すような寒さに頬や鼻が痛い。



シュカブラと固い雪面など、シールが滑るようになり、上部へのハイクアップは苦勞した、それでも新雪が載っているルートを選び何とか頂上に続く稜線に達した。去年は今年ほどの厳しさはなく三段山の山頂に達し記念撮影し、滑走開始できたが、頂上ではやや視界が悪く、厳しい寒さで我慢できない。すばやく集合写真を撮り、シール滑走でエントリーポイントまで下った。



- ・今回は厳しい気象条件で登頂は諦めムードであったが 2 年連続の登頂で大満足である。昨年は上部からパウダーエリアを滑走でき、登り返して滑走したが、今回は無理である。滑らかな斜面でも雪面が固く、また低温のため板の滑りが極めて悪い。暫く下ると、固い下地の上にパウダーが温存されている沢地形になり、気持ちよいターンが描けるようになってきた。シラビソ林には快適なパウダーが温存されており、短い距離ではあるが気持ちよいパウダーランを楽しめた。



白銀荘まで滑走、時間が十分あるため、通称ナマコ尾根に向かった。十勝岳に向かう登山道ルートから富良野川左岸に沿ってナマコのような尾根に向かう。林間で良質のパウダーが温存されており、滑走意欲がそそられた。目的の尾根に到達するまでには支尾根と沢が入り組んでおり、ルートファインディングが難しい。結局間違えて三段山に向かうルートに合流、三姉妹まで登り上げ 2 本目の滑走を楽しみ 1 日目は終了した。パウダーランはあまり楽しめなかったが、予想以上の満足の日であった。累計標高差 950m

- ・ 2 日目の朝までに約 10 cm の降雪があった。ジャイアント尾根へのツアー、駐車場には早くもかなりの先行車があった。ヌッカクシ富良野川の渡渉は小川が 2 か所、最初の渡渉は曲者でスキー板を向こう側に投げて、(?) 幅 30 cm ほどの橋(?) を 2m ほど渡るが、バランスを保つのに苦労した。最初の渡渉鬼門を通過し一安心、これから山に入るのだ!!



入山地点も下地が固いトラバース登りで緊張する。

ベベルイ川を右下に見ながら、トラバース状に少しずつ高度を上げていき、ベベルイ川の反対側に乗り移り休憩とした。



ここからシラビソ林の急斜面をジャイアント尾根に乗り上げて行きます。シラビソ林は中斜面でややうねりがあるが、樹間は適度に開いており、30～40 cmの軽いパウダーが温存されており、滑走が期待できる。テンションを上げてハイクアップした。高度を上げていき、低木の疎林になると昨年同様、徐々に下地が固くなってきた。他のグループは固い雪面をものともせず、更にハイクアップしていたが、我々は昨年同様 1400mあたりでエントリーすることとした。



やはり上部は固い雪面がすぐ下にあり、慎重に滑走しないとトラブルになりやすい。写真を撮り最後尾で滑走した。少し下り、大きなダケカンバやシラビソ林は快適なパウダーランである。出来るだけノートラックルートを選ぶが、先行者のシュプールが多い部分もある。標高差 150m位を 2 回登り返して、動画を撮ったりしながら遊んだ。



米国からの 3 人組は我々より長い距離を凄い速さで 3 回ほど登り返して楽しんでおり、ジャパンプウダーに心酔していた。この 3 人とは同じ宿であり宴会に招き、情報交換を行い、楽しいひと時を過ごせた。彼らは白銀荘の前は、ニセコエリアで楽しみ、羊蹄山山頂からのパウダーランを楽しんだようだ。素晴らしい体力とバイタリティである。パウダーランを 2 回楽しんだあとの休憩タイムです。カップヌードルが美味しそうです。太陽に向かっての最後の登り返しです。



ジャイアント尾根の滑走は昨年より積雪も多く快適なパウダーランが楽しめました。
累計標高差：約 700m



- ・3日目は富良野スキー場である。外国人が極めて多くゲートを潜って Outback を滑走できるが、前日にフランス人のグループの遭難騒ぎがあった。
われわれもゲートAを通過し急斜面にドロップしたが大きなクラックが入っている箇所が3ヶ所ほど、40 cm前後の新雪も不安定、慎重に高度を下げ何とか安全地帯に到達できた。漸くゲレンデ近くのカラマツ林に到達し安堵したが、反省点が多い一本であった。
その後は快適なゲレンデ滑走を数本、小生は大腿四頭筋に疲れが強く、アルペン滑りに徹した。



- ・最終日（10 日）は富良野で 0℃位に気温が上昇、富良野川に沿ってその右側の尾根（ナマコ尾根）に向かった。出発時の気温は-6℃、寒さを感じない。さらに降雪があり林間パウダーを期待しながらハイクアップした。1 日目に偵察したが下部の支尾根からナマコ尾根への移動ができなかったが、今回は慎重に目的の尾根に乗り上げることができた。緩斜面主体の尾根は、次第に広くなり、低木の疎林地帯・無木立斜面で滑走意欲を高めます。



視界はやや不良であるが、前十勝岳の岩壁を右に見ながら、ハイクアップを続けた。スタートしてから約 2 時間、標高 1420m 地点はハイマツが埋まり切らない、固い雪面となっておりここから滑走した。



気温上昇でやや重パウダーであるが、緩斜面でもゆっくりテレターンを楽しめます。CL の goro さんも雪煙を上げながらパウダーランを楽しんでいます。斜度のある樹林帯では更に快適な雄叫びパウダーランで締めくくることができました。苫小牧に早々と到着し、回転寿司で打ち上げ宴会。帰りのフェリーは八戸までです。翌日 5 時頃八戸港到着、その後高速で郡山へ、午後 3 時半には帰葉できました。変化のある満足の北海道遠征でした。皆さんありがとうございました。

